



心ゆたかな たくましい子

学校便り 10月号
平成30年10月5日
御前崎市立浜岡東小

学校教育目標『心ゆたかな たくましい子』 重点目標『気づき 認め合おう』

芸術の秋に突入

校長 岡本 敦子

10月26日(金)は御前崎市音楽発表会です。例年通り4年生が出演します。私は以前から、東っ子が一流の音楽家の指導を受ける事で、本物の素晴らしさを感じてほしいと願っていました。そこで文化庁主催の芸術家招聘事業に申し込んだところ、掛川市出身の音楽家、伊達伸子先生の指導を受けられることが決まりました。やる気いっぱいの4年生です。心に響く歌詞を「ff.とても強く」届けてくれることと思います。



子どもの自己肯定感向上:「ほめ上手」ですか？

先日、「テレビ寺子屋」を観ていると、教育評論家の親野智可等さんが「ほめ上手になろう」という演題でお話をしていました。『ほめ上手』はまさに今年度の東小の取組です。たくさんのヒントを見つけることができたのでご紹介します。

【その1】「子どもを伸ばしたい」お家の方に→「ほめるのが一番」

親は大きな期待があるからこそ叱ってしまうが、子どもの自己肯定感はボロボロ。暴力を振るわれた子は親に不信感を抱く。否定的な言葉は否定的な自己イメージを作ってしまう。プラスの言葉を掛けられた子はいい自己イメージを持つ。それは子どものチャレンジ精神を後押しする。

【その2】「ほめるところがない」というお家の方に→「嘘でもほめる」

あるお母さんが、少々こぼしながらカレーを混ぜている子に「上手だね」「こぼさずに出来たね」とほめた。すると、子どもはこぼさないようにゆっくり、慎重に混ぜ始めた。うそでもほめると、子どもはプラス思考で行動するようになる。

【その3】「ほめる言葉が難しい」というお家の方に→「できた事実を言うだけ」

長々ほめるのは禁物。「きれいに食べたね」「時間を守れたね」「ありがとうって言ってくれて嬉しいな」「宿題を最後までやりきってえらいね」などの言葉で十分。さらに、一緒に喜んでもらえると子どもはもっと嬉しくなり、やる気UP。

【その4】「いい子じゃないといけないって思わないかな？」というお家の方に→

「どんなあなたもOKと伝え続ける」

無条件に愛していることを1日1回は伝えてください。「どんなあなたもOK」と。

心に残るエピソード 9月編

給食車の駐車スペースで遊んでいた1年生の男子に「危ないから、他の場所で遊ぼう」と声を掛けると、「ここだったら大丈夫かな?」「校長先生、注意してくれてありがとう」の声が何人もの子どもの口から飛び出しました。こんなことが自然に言える東小の子どもってやっぱり素敵です。